

ソフトウェア基礎科学分野 (住井・松田研究室)

教授 住井 英二郎
准教授 松田 一孝
助教 Oleg Kiselyov

教員紹介



教員紹介 (住井)

1975年 東京生まれ
1998年 東京大学理学部情報科学科卒業
2000~2001年 ペンシルバニア大学 客員研究員
2001~2003年 東京大学 助手
2003~2005年 ペンシルバニア大学 RA
2010~現在 日本学術会議 (特任) 連携会員

2005年~現在 東北大学 助教授→准教授→教授

- 詳しくは <http://www.kb.ecei.tohoku.ac.jp/~sumii/>
(もしくは短縮URL <https://j.mp/SmiThk>)を
- 趣味 (最近): Twitter (@esumii)



教員紹介 (松田)

1982年 愛媛生まれ
2004年 東京大学工学部計数工学科卒業
2009年 博士 (情報理工学) @東大
2008~2010年 学振特別研究員@東大
2010~2012年 東北大学 助教
2012~2015年 東京大学 助教

2015~現在 東北大学 准教授

- 詳しくは "Kazutaka Matsuda 東北大" で検索



教員紹介 (Oleg)

Oleg Kiselyov (オレグ キセリョーフ)
<https://okmij.org/ftp/>

1993年 北テキサス大学 計算機科学科
博士課程 修了
1996~2014年 企業→国立研究所
(カリフォルニア)

2015年~現在 東北大学 助教



研究分野

プログラミング言語理論&実践

"Programming Language Theory & Practice"

プログラム: **計算の記述**

プログラミング言語: **計算の記述体系**

C, Python, C#, F#, λ 計算, π 計算,
Turing機械, オートマトン, 形式言語, ...



バグを防ぐには?

- ❖ プログラムを作るとき気をつける
- ❖ よく見て確かめる (レビューイング)
- ❖ 試しに動かしてみる (テスト)
- ❖ ...
- ❖ **数学的基礎に基づくアプローチ**

プログラミング言語理論的バグ撲滅法

- ❖ (自動) 検証
 - プログラムがバグがないことを数学的に (自動) 証明
- ❖ プログラミング言語設計
 - 特定のバグがないことを保証する構文や型システム

研究室のカリキュラム

学部3年11月～2月 (課題)

- 関数型言語OCamlのプログラミング

(日本語の教科書, 練習問題)

学部4年4月～ (一部は3月から)

- プログラミング言語理論の基礎についての輪講

(英語の教科書, 言語処理系実装, 定理証明ソフトウェアCoq)

- ゼミ, 授業

10月～ ゼミ, 卒業研究

2月頃 卒論発表会 (中野研究室と合同)

3月頃 できれば学会発表

大学院 (進学の場合)

- ゼミ, 輪講, 授業, 修士研究, できれば国際学会発表

研究室で学ぶこと

- ❖ プログラミング言語理論
- ❖ プログラミングを含む **情報科学・計算機科学 (コンピュータサイエンス) の「常識」**
- ❖ プログラムを含む一般の物事について **論理的に理解・説明する能力**
 - 本来の意味での「コミュニケーション能力」
- ❖ 技術的な文章を読み書きする能力 (日本語・英語)

まじめに研究するのは大切

大堀研・中野研との合同卒論発表会 (2020年)



楽しく研究するのも大切！

押しポイント！

- ❖ 数学が動く！
 - 定理を証明 → プログラムが高速・安全に
- ❖ ソフトウェアの数学/理論的基盤
 - 構成から正しいプログラミングや検証
- ❖ プログラミング言語の系統的な理解
 - 新しい言語を習得する基礎力



わかる...わかるぞ...!!

高度な (≠ 難しい)

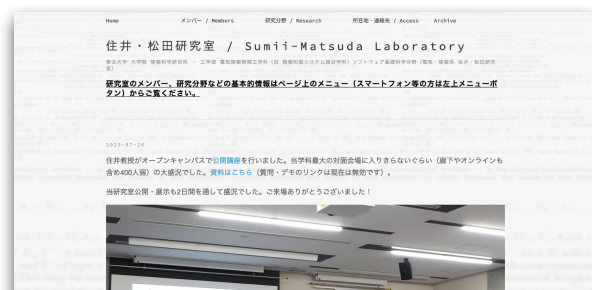
最先端理論を

楽しく勉強しましょう！

興味のある人は sf-staff@sf.ecei.tohoku.ac.jp までメールで予約すれば、もっとゆっくりと見学できます！

こちらも参考

住井・松田研究室ホームページ兼ブログ
<https://www.sf.ecei.tohoku.ac.jp/>





Ohmsha
Publisher of Science and Engineering Books

Home

理工学専門 コンピューター一般書 資格試験 雑 誌

◆ 新刊案内

書籍検索

番号 に

上記を含む 検索

詳しく検索 >>

オームビルテナント募集中

eStore (β)
PDF版書籍データ販売

Ohm Bulletin

◆ 各種セミナーのご案内

Home > コンピューター一般書 > プログラミング言語の理 解

型システム入門 プログラミング言語と型の理論

著者： Benjamin C. Pierce 著
住井大二郎 訳
遠藤佑介・酒井政祐・今井敬吾・黒木格介・今井宜洋・才川隆文・今井健男 共訳
定価： 7140円(本体6800円+税)
B5 528頁
ISBN 978-4-274-06911-6
発売日： 2013/03

型システム入門

ポイント 201

いいね! 21

16

カートに入れる

Download 第1章のサンプルダウンロード
訳者によるサポートページ
◆PDF版はこちら

※本点価格は変更される場合があります。
※通常2〜3日以内で発送いたします。

目次

目次

型システムを理解するうえで の 定書書を訳す

型システムとは、プログラミング言語の安全性や効率を高めるうえで重要な理論・手法です。本書は、その型システムについて基礎的な話題を網羅し、実例を交えて丁寧に解説したThe MIT Press発行の解説書「Types And Programming Languages」(TAPL)を翻訳したものです。言語設計者や学生だけでなく、静的型付け言語を深く理解して活用したいプログラマーにとっても貴重な情報となっています。

★このような方におすすすめ

情報科の学生、研究者
静的型付け言語を利用するプログラマー

主要目次

日本語版に寄せて

監訳者序文
実用情報

序文
謝辞

第1章 はじめに
第2章 数式的準備

■第1部 型無しの計算体系

第3章 型無し算術式

マイナビ Amazonポイント	キオクシア	システム	ヘルス	ヘルス	キオクシア	システム	ヘルス
カテゴリー から探す	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
本	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報	新刊・予約	Amazonポイント	コミック・ラベル	雑誌	文芸・学術	専門書
ベストセラー	最新情報						

<http://j.mp/tapltalk>

riconico 動画 映画 生放送 チャンネル ブログ その他

【ニュース】「夜風呂VS.朝シャワー」どっちがいいの？

「型システム入門」プログラミグ言語と型の性質 (オーム社) 刊行記念トークセッション
いまこそ学ぶ! 型システム〜TAPL日本語出版までの道のり〜
住井英二郎 (監訳者) & 翻訳チーム

再生リスト: オススメ

- いまこそ学ぶ! 型システム〜TAPL日本
- 宮野俊人×柴山桂太 文相の眼で新しい
- 中野剛成×柴山桂太 「グローバル参画の真
- 宮野俊人×神尾達博 「没落する文明」
- 佐々木敦×大澤真幸 デジタル時代のリアルと
- 佐々木敦×千原智也 未知との遭遇は如何
- 松井雄×坂口博樹 「豊き合う商業と数字」
- 松井雄×坂口博樹 「豊き合う商業と数字」
- 酒場から見た東京

動画をもっと見る

ニコメンド この動画を見ている人からの紹介コンテンツ ニコメンドとは

javascript::

動画レビュー

http://j.mp/icfpc2011video



プログラミングのウソ/ボカロ/Swift

ソフトウェア

Android アプリ開発が 5日でわかる本

特別付録で超入門

オブジェクト指向以前の技術は不要?

オブジェクト指向は確固たる概念?

オブジェクト指向には継承が必要?

オブジェクト指向と関数型は相容れない?

Haskellさえ使えば高品質で高生産性?

「効果音」「BGM」「歌」はこう作る

Cubase/VOCALOIDで

音だってプログラミング!

アップルの新言語を学ぼう

「Swift」はじめの一步

ラズパイで「ファミコン風の音」

Android最新技術&入門マンガ

「JavaFXの印刷」を試す

HTML5でジャンプアクションゲーム

Win 8対応の「天気予報アプリ」作成

CoffeeScriptでJavaScriptを楽に

集中連載 ユニティちゃん で遊ぼう

第1回 障害物ゲームを作る

アップルが 新型iPhoneとWatchを発表

通説 オブジェクト指向には継承が必須である

むしろ継承は避けられる方向にある

Part3 OCaml入門:「O」が示すもの

東北大学 大学院 情報科学研究科 教授 住井 英二郎

関数型プログラミングとオブジェクト指向プログラミングは相容れない、という意見をよく聞きます。確かに「状態を持つオブジェクト」と「状態を排除する関数型プログラミング」は正反対の性質に見えます。

しかし、実際には関数型言語とオブジェクト指向は大いに関係があります。むしろ、これらの基礎理論については、ほとんど同じコミュニティの研究者が取り組んでいるのが実態です。

そこでこのパートでは、関数型プログラミングとオブジェクト指向プログラミングについて考察するため、これら両方に対応した「OCaml」という言語を紹介いたします。

OCamlは「ML」という関数型言語の一種です。MLは英エジンバラ大学に当時在籍していたロビン・ミルナー氏らによって設計・開発されました。MLには複数の方言や実装があります。その中には「Standard ML (SML)」という標準仕様もあります。SMLは、一種の論理式によって厳密に定義されている点が特徴です。

一方、OCamlはフランス国立研究所INRIAのザビエル・ロワ氏らが開発した言語です。当初は「Objective Caml」を略してOCamlと呼んでいましたが、現在はOCamlが正式名称になっています。その名前が示すように、オブジェクト指向プログラミングの機能を備えるMLです。SMLのような厳密な仕様はありませんが、以下のような特徴を持っています。

- ・環境が整備されておりインストールが容易
- ・ライブラリやアプリケーションが豊富
- ・優れたコンパイラがありプログラムの実行が高速
- ・メーリングリストやユーザー企業などのコミュニティが活発

OCamlの基本的な使い方

OCamlの処理系はWebサイト(<http://caml.inria.fr/ocaml/>)からダウンロードできます。ソースコードに加え、WindowsやMac OS X、Linuxといった様々なOSに対応したインストール用のバイナリが用意されています。ただしWindows版は開発環境などの問題があり、本格的な利用にはやや困難を伴います。

Windowsにインストールした場合、コマンドプロンプトで「ocaml」と入力すれば、対話環境が起動します。終了するには「Ctrl+z」を入力してEnterキーを押してください。OCamlをもっと手軽に試したいなら、Webページ上で対話環境を利用できる「Try OCaml」(<http://try.ocamlpro.com/>)というサービスもあります。

では、対話環境を起動してみましょう。

```
> ocaml
OCaml version 4.01.0

[1 + 2]とタイプしてEnterキーを押してみてください。
# 1 + 2 ;
- : int = 3

この「1 + 2」がOCamlのプログラム(式)です。それを計算(評価)することで、整数型(int)の「3」という結果(値)になったのです。なお、式の後ろに付ける「;;」は入力の一区切りを表す合図で、式の一部ではありません。式の字句と字句の間には、空白や改行やコメントをいくら入れてもかまいません。コメントは「(*」で始まり「*)」で終わります。式にカッコを付けてまとめることもできます。

# (3 - 4)
```

<http://j.mp/itprofun>


[クリエイティブ・コモンズ](#)


[Premium](#)


[SPECIAL](#)


[YouTube](#)

[新着記事](#)
[ログアウト](#)

[トップページ](#)
[ソフトウェア開発](#)
[情報科学的なプログラミング方法論のすすめ](#)
[お問い合わせ](#)

[検索](#)
[詳細検索](#)


[P&G](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)


[ソフトウェア開発](#)


[P&G](#)

Lightweight Language Future
● LL で未来を発明する ●



セッション概要

「未来を予測する最良の方法は、未来を発明してしまうことだ」アラン・ケイの有名な言葉です。また、ポール・グレアムは「百年の言語 - The Hundred-Year Language」というエッセイを書き、百年後を予想して現在の選択肢に離れるべきかを考察しています。

このセッションでは言語設計者、処理系実装者に集まっていただき、次の3つの質問をパネルーにぶつけ、未来の言語、百年後の言語を「発明」していきます。

1. 百年後の言語はどうなっていると思いますか?
2. 1のために、あなたは今まで何をしてきましたか?
3. 1のために、あなたはこれから何をしますか?

■ 出演

- Larry Wall (Perl)
- まつもとゆきひろ(Ruby) (ネットワーク応用通信研究所)
- 住井英二郎(MinCamI) (東北大学)
- 藤田善勝(Ypsilon) (リトルウィング)
- ひげぼん(Mosh) (サイボウズ・ラボ)

司会: 今泉貴史(千葉大学)

To invent the future by Lightweight Languages

"The best way to predict the future is to invent it," said Alan Kay. Since software will be everywhere in our future, programming languages are the tool to build the future. If you want to invent the future, it is crucial to invent the right language.

We invite five panelists from the front line of language design and implementation, and discuss the future of programming languages, starting from asking the following three questions to them:

1. What kind of language do you think will be the best for the next century?
2. What have you done to get the best language?
3. What will you do to invent the best language?

Panelists:

- Larry Wall (Perl)
- Yukihiro "Matz" Matsumoto (Ruby)
- Eijiro Sumii (MinCaml)
- Yoshikatsu Fujita (Ypsilon)
- higepon (Mosh)

Moderator:

- Takashi Imaizumi (Chiba University)

<http://j.mp/llfuture>

LL で未来を発明する (1/3)

LL Future (2008-08-30) 次: sm4503349 (LL で未来を発明する) 最初: sm4481852 (LL Future 開会宣言) マイリス... すべて表示

登録タグ: LLFuture TechTalk Ruby Matz 釘宮病 プログラミング

【話題の記事】食品偽装は今流行…じゃなく大正時代からあった！【山下泰平の：】

おお

コメント NG設定 ニコメンド

コメント	再生時
カバ312	03:04
そんな様な未来は考えたくない	03:43
住井さん好きなー	05:25
若い	05:36
座っていいよw	05:41
Usp?????wwww	06:54
住井さんすばらしい	06:59
これはwwwwwwwwwwwwwwwwwwww	07:01
めずらしくまじめな人	07:05
aが関数でどどん適用してってるのね	07:11
へー	08:00
おいら	08:15
興味深い議題だな	08:22
な、なんだってー！	09:00
ロマンチックね	09:04
ほう	09:32

再生リスト: オススメ

2015-09-07

ICFP 2015

教授の住井、准教授の松田さん、助教のオレグさん、ならびに修士2年の徳田くんが、カナダのバンクーバーで開かれたICFP 2015（関数型プログラミングに関する国際学会）に参加しました。写真は松田さんの発表です（動画）。徳田くんの発表の動画もあります。来年のICFP 2016は日本の奈良で開かれる予定です（住井がプログラム委員長を拝命しました。よろしく願います）。



[PREV](#) [NEXT](#)

- Hello, you're not logged in. [Login now!](#)
- [Shopping Cart](#) (0 Articles : \$ 0.00)
- [Help?](#)
- [Shop](#)
- [Designs](#)
- [Purchase](#)
- [Help ?](#)

 This shop requires cookies in order to work properly. Please click here to activate cookies.

All products

Product Details



- [Front](#)
- [Back](#)
- [Right](#)
- [Left](#)

Oleg Already Did It

Men's T-Shirt

Classic-cut standard weight t-shirt for men, 100% pre-shrunk cotton, Brand: Gildan

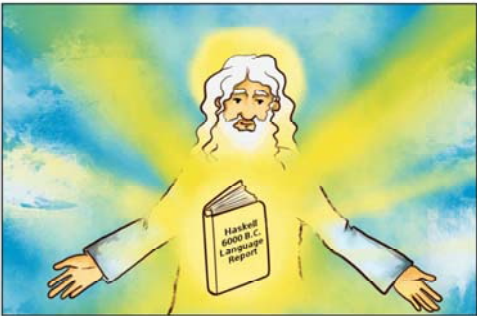
Details

Oleg Kiselyov, computer scientist, already solved that. In the type system.

Cartesian Closed Comic

Iteratees

[=ccccccid>>>>>>=](#)



God created Haskell; and everything in Haskell was lazy*, including IO; and God liked it.

* non-strict

People said to each other, «Come, let's make libraries and bake them thoroughly.»
Then they said, «Come, let us build ourselves an iteratee IO library.
Otherwise we will suffer from the shortcomings of lazy IO.»



God said, «If they can invent their own IO, then nothing they plan to do will be impossible for them. Come, let us go down and confuse their iteratee libraries so they will not understand each other.»



The variety of streaming IO libraries confused developers, and everyone continued to use lazy IO.



See e.g. [this discussion](#) about the leftovers problem.
[=ccccccid>>>>>>=](#)
[Archive/Subscribe/Authors](#)
Published on October 20, 2012

Iteratee

From Wikipedia, the free encyclopedia

In functional programming, an **iteratee** is a composable abstraction for incrementally processing sequentially presented chunks of input data in a purely functional fashion. With iteratees, it is possible to lazily transform how a resource will emit data, for example, by converting each chunk of the input to uppercase as they are retrieved or by limiting the data to only the five first chunks without loading the whole input data into memory. Iteratees are also responsible for opening and closing resources, providing predictable resource management.

On each step, an iteratee is presented with one of three possible types of values: the next chunk of data, a value to indicate no data is available, or a value to indicate the iteration process has finished. It may return one of three possible types of values, to indicate to the caller what should be done next: one that means "stop" (and contains the final return value), one that means "continue" (and specifies how to continue), and one that means "signal an error". The latter types of values in effect represent the possible "states" of an iteratee. An iteratee would typically start in the "continue" state.

Iteratees are used in Haskell and Scala (in the Play Framework^[1] and in Scalaz), and are also available for F#. ^[2] Various slightly different implementations of iteratees exist. For example, in the Play framework, they involve Futures so that asynchronous processing can be performed.

Because iteratees are called by other code which feeds them with data, they are an example of inversion of control. However, unlike many other examples of inversion of control such as SAX XML parsing, the iteratee retains a limited amount of control over the process. It cannot reverse back and look at previous data (unless it stores that data internally), but it can stop the process cleanly without throwing an exception (using exceptions as a means of control flow, rather than to signal an exceptional event, is often frowned upon by programmers^[3]).

Contents

- 1 Commonly associated abstractions
 - 1.1 Enumerators
 - 1.2 Enumeratees
- 2 Motivations
- 3 Examples
- 4 Uses
- 5 History
- 6 Formal semantics
- 7 Alternatives
- 8 References
- 9 Further reading
- 10 External links

Commonly associated abstractions

The following abstractions are not strictly speaking necessary to work with iteratees, but they do make it more convenient.

Enumerators

An **Enumerator** (not to be confused with Java's Enumeration interface) is a convenient abstraction for feeding data into an iteratee from an arbitrary data source. Typically the enumerator will take care of any necessary resource cleanup associated with the data source. Because the enumerator knows exactly when the iteratee has finished reading data, it will do the resource cleanup (such as closing a file) at exactly the right time – neither too early nor too late. However, it can do this without needing to know about, or being co-located to, the implementation of the iteratee – so enumerators and iteratees form an example of separation of concerns.

Enumeratees

An **Enumeratee** is a convenient abstraction for transforming the output of either an enumerator or iteratee, and feeding that output to an iteratee. For example, a "map" enumeratee would map a function over each input chunk.^[3]

Motivations

Iteratees were created due to problems with existing purely functional solutions to the problem of making input/output composable yet correct. Lazy I/O in Haskell allowed pure functions to operate on data on disk as if it were in memory, without explicitly doing I/O at all after opening the file - a kind of memory-mapped file feature - but because it was impossible in general (due to the Halting problem) for the runtime to know whether the file or other resource was still needed, excessive numbers of files could be left open unnecessarily, resulting in file descriptor exhaustion at the operating system level. Traditional C-style I/O, on the other hand, was too low-level and required the developer to be concerned with low-level details such as the current position in the file, which hindered composability. Iteratees and enumerators combine the high-level functional programming benefits of lazy I/O, with the ability to control resources and low-level details where necessary afforded by C-style I/O.^[4]

Examples

Uses

Iteratees are used in the Play framework to push data out to long-running Comet and WebSocket connections to web browsers.

Iteratees may also be used to perform incremental parsing (that is, parsing that does not read all the data into memory at once), for example of JSON.^[5]

It is important to note, however, that iteratees are a very general abstraction and can be used for arbitrary kinds of sequential information processing (or mixed sequential/random-access processing) - and need not involve any I/O at all. This makes it easy to repurpose an iteratee to work on an in-memory dataset instead of data flowing in from the network.

History

In a sense, a distant predecessor of the notion of an enumerator pushing data into a chain of one or more iteratees, was the pipeline concept in operating systems. However, unlike a typical pipeline, iteratees are not separate processes (and hence do not have the overhead of IPC) - or even separate threads, although they can perform work in a similar manner to a chain of worker

threads sending messages to each other. This means that iteratees are more lightweight than processes or threads - unlike the situations with separate processes or threads, no extra stacks are needed.

Iteratees and enumerators were invented by Oleg Kiselyov for use in Haskell.^[4] Later, they were introduced into Scalaz (in version 5.0; enumeratees were absent and were introduced in Scalaz 7) and into Play Framework 2.0.

Formal semantics

Iteratees have been formally modelled as free monads, allowing equational laws to be validated, and employed to optimise programs using iteratees.^[4]

Alternatives

- Iterators may be used instead of iteratees in Scala, but they are imperative, so are not a purely functional solution.
- In Haskell, two alternative abstractions known as Conduits and Pipes have been developed. (These Pipes are not operating system level pipes, so like iteratees they do not require the use of system calls).
- There is also a high-level abstraction named Machines (<http://hackage.haskell.org/package/machines>) (implemented in Scala on top of Scalaz as scalaz-stream (<https://github.com/scalaz/scalaz-stream>)).
- In Haskell, the package safe-lazy-io (<http://hackage.haskell.org/cgi-bin/hackage-scripts/package/safe-lazy-io>) exists. It provides a simpler solution to one of the same problems, which essentially involves being "strict enough" to pull all data that is required, or might be required, through a pipeline which takes care of cleaning up the resources on completion.

References

- "Handling data streams reactively". *Play Framework documentation*. Retrieved 29 June 2013.
- "Github Search Results: Iteratee in FSharp".
- "Java theory and practice: The exceptions debate". *IBM developerWorks*. Retrieved 17 May 2014. **Cite error: Invalid <code> tag; name "play-enumerator" defined multiple times with different content (see the help page)**.
- Kiselyov, O. (2012). "Iteratees". *Functional and Logic Programming*. Lecture Notes in Computer Science **7294**. pp. 166–181. doi:10.1007/978-3-642-29822-6_15. ISBN 978-3-642-29821-9.
- James Roper (10 December 2012). "Json.scala". *play-iteratees-extras*. Retrieved 29 June 2013.

Further reading

- John W. Lato (12 May 2010). "Iteratee: Teaching an Old Fold New Tricks". *Issue #16 of The Monad Reader*. Retrieved 29 June 2013. This relates to Haskell.

External links

- Scala tutorials**
 - Play 2.0**
 - Understanding Play 2 iteratees for normal humans (<http://mandubian.com/2012/08/27/understanding-play2-iteratees-for-normal-humans/>)
 - Iteratees for imperative programmers (<http://jazzy.id.au/default/2012/11>)

- /06/iteratees_for_imperative_programmers.html)

- Scalaz**
 - Scalaz tutorial: Enumeration-based I/O with iteratees (<http://blog.higher-order.com/blog/2010/10/14/scalaz-tutorial-enumeration-based-io-with-iteratees/>)
 - Haskell tutorials**
 - Stanford lecture notes (<http://www.scs.stanford.edu/11au-cs240h/notes/iteratee.html>)
 - Further information**
 - Oleg Kiselyov's Iteratees and Enumerators page (<http://okmij.org/ftp/Streams.html>)

Retrieved from "https://en.wikipedia.org/w/index.php?title=Iteratee&oldid=678494039"

Categories: Functional programming | Iteration in programming

- This page was last modified on 29 August 2015, at 18:52.
- Text is available under the Creative Commons Attribution-ShareAlike License; additional terms may apply. By using this site, you agree to the Terms of Use and Privacy Policy.

Wikipedia® is a registered trademark of the Wikimedia Foundation, Inc., a non-profit organization.